



担当

保健師 藤村直美

健康情報

今月のテーマ

あなたの今日が、だれかの明日に 1月・2月は献血月間です

献血にご協力を！

成人体重の約13分の1を占める血液は、栄養や酸素の運搬、免疫など人間の生命を維持するために欠かせないものです。

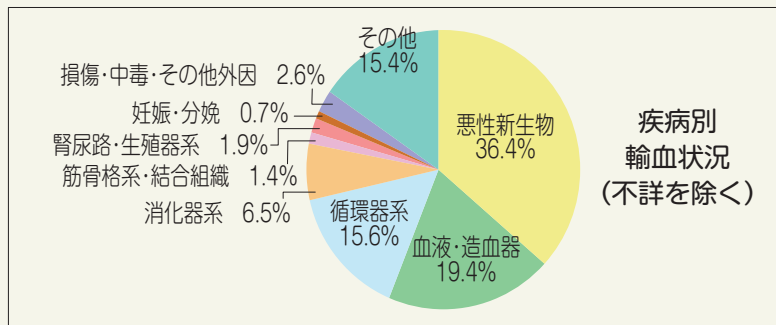
血液製剤とは、人の血液または血液から得られた物を有効成分とする医薬品のことです。輸血用血液製剤と血漿分画製剤に分かれます。多くの患者の病気やけがの治療に使われている血液製剤は、献血で提供された血液から作られています。血液は人工的に作ることができず、長い間保存することもできません。また、献血者の健康を守るため、1人あたりの年間の献血回数や献血量には上限があります。そのため、安定的に血液製剤を届けるためには、多くの方の協力が必要です。

献血で提供された血液の疾病別輸血状況

現在、血液の機能は完全に代替できる手段はないため、医療において輸血は欠

かすことのできない治療法となっております。

輸血というと、けがなどの不慮の事故で使われるイメージがありますが、輸血を必要としている人の多くは、がん(悪性新生物)の患者さんです。皆さんの献血は、さまざまな疾病を持つ患者さんの明日につながります。(令和2年東京都輸血状況調査集計結果より)



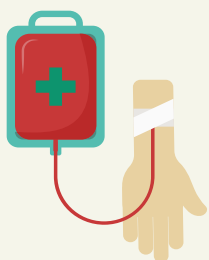
献血で提供された血液で「つくられるくすり」

献血された血液は、血液型やウイルスなどの有無を調べた後、赤血球や血小板、血漿の成分ごとに、目的に合わせた血液製剤になります。輸血に使われる輸血用血液製剤は、献血された血液のおよそ半分で、残りの半分は医薬品をつくるために使われています。

献血にはどんな種類があるの？

献血には、全血献血と成分献血があります。全血献血には400ml献血と200ml献血があり、血液の中のすべての成分を献血する方法です。一方、成分献血は、血小板や血漿といった特定の成分だけを採血し、体内で回復に時間のかかる赤血球は再び体内に戻す方法です。成分献血は、献血者の身体への負担も軽いという特徴があります。人の血液は、たとえ血液型が同じでも微妙に違います。このため、一人の患者さんに使われる輸血用血液製剤が、より少ない人数の献血によってまかなわれていなければならないほど、輸血後の副作用(発熱、発疹など)

令和4年度第3回の献血を実施します



とき	1月27日(金) 総合ケアセンターゆくり
ところ	2月6日(月) 厚南会館
献血の種類	400ml献血
対象年齢	男性で17歳~69歳、女性で18歳~69歳 ※65歳以上の方は、60歳から64歳までの間に献血をした方に限る

詳細は、14ページ「保健の掲示板」でご確認ください。

発生の可能性が低くなり、日本赤十字社では、輸血を受ける患者さんへの安全性をより向上させるために、輸血基準を満たした方には400ml献血、成分献血の協力を呼びかけています。